誌上行学講習会

高佐日煌上人

人間心の人間心　これは平常心であります。お互いに親しみ和したいという親和心で、これを最もよく示すものが挨拶の言葉であります。人が出会いますと「今日は」と言う。「今日は？とは何ぞや！」この位不思議な言葉はない。「きょうは」という字です。「こんにちは」というからおかしくないので「きょうは」と言うんではおかしいものです。「やあきょうは」では意味が通じない。田舎へ行くと、「今晩は」というのを「おばんです」という。夜は今晩は、昼は今日は、この言葉は考えるとなかなか意味しんちょうなもので、長い文句がこの中に入っている。「今日はあなた様もごきげんよろしう。私もおかげでよい気持でございます。どうぞ今日も仲良く親しみあって行こうぢゃございませんか」。こういう気持を後の方をしょう略して「今日は」といい、「今晩は」と言うのであります。皆さん如何ですか。そういう気持であいさつをしているわけでしょう。「今日はバカヤロー」等と言う人はありません。それらはすべて人間の親和心がそうさせるのであり、又いつまでも仲良くして行きたいですねという共感を呼ぶ心がそうさせるのであります。

もう少していいねいな場合は「いいお天気でございます」等と、天候、気候に及んで親愛の情を示すようであります。自分のところでちょっとしたものをつくると隣りの家に持って行く。いただいた方は必ずお返しに何かを持って行く。これらも親和心がそうさせるのであります。

人間心の天上心。これは歓楽心。一ぱい飲んで楽しむ。映画を観て楽しむ。めづらしいところ、美しいところへ出かけて楽しむ。友人知人を招いて楽しむ。嬉しいという気持はすべて歓楽心であります。非常に楽しい心をいうのであります。

人間心の声聞心。これは向上心であります。現在の状態から少しでも良くなろう。今の商売をもっと繁盛させよう。ただ勉強するというのでなくても現状に甘んじない、なんとかよくなろうという心。これを指すのであります。私の経験でありますが、私が青年の頃朝鮮開教師として行っておりました頃、体つきのばかに大きい、しかしあまり学問はなさそうな、豆売りから出世したという人が信徒になりました。実にきまいよくお寺の為に布施をするのです。だんだん聞いてみますと始めは「豆、豆」と豆を売りに歩いていた。その中諸々を歩いている中に、菓子店を失敗して辞める人を見つけて買い入れるという、常に向上心をもって努力したというのであります。私は感心させられました。

人間心の縁覚心。これは自覚心であります。自分で気のつくという心であります。我々人間に幼少から物事はこうだこうだと一つづつ悟つて育つて今日に至っているわけであります。ことわざにも「亀の甲より年の甲」と言われますが、年の甲とは経験のことであります。経験とは人生の悟りを指すわけで、このことを自覚心と言うのであります。

以下次号